







各町内の曳山が一堂にそろう御旅所は、曳山そのものを見て楽しむ絶好のチャ

ンスです。御旅所祭を終えた神輿が相染町へ向かった後、曳山も順に出発してい

7月21日 昼 本可通りなど 曳山が神輿とともに相染町の御旅所を目指します。勇壮な曳山が本町通りを巡 行します。

安東氏の居城「湊城」

「湊城」とは、室町時代に安東氏が築いた居城です。現在は城跡として残るのみですが、土崎神明社を中心として、東西方向に約500m、南北方向に約420mに広がっていたと考えられています。当時、土崎地区とその周辺地域は「秋田湊」と呼ばれており、室町時代末に成立した日本最古の海洋法規集『廻船式目』に、日本の十大港湾「三津七湊」の一つにあげられる有名な湊です。安東氏は、この「秋田湊」を拠点として活躍しました。

秋田市教育委員会の発掘調査により、「湊城」中心部から 15世紀末頃の遺物が出土しました。また、安東実季が行った 慶長4~6年(1599~1601)の湊城大改修の痕跡と考えられ る遺構も確認されています。土崎地区は、安東氏を語る上で、 貴重な埋蔵文化財が眠っている地域です。

土崎の歴史と地名の由来

相染町の

秋田市土崎地区は、秋田運河の河口に位置する港町です。 中世は安東氏の居城「湊城」として、藩政期は北前船も寄港 する秋田藩城下町の外港「土崎湊」として栄えました。町民に は問屋・小宿や、交易・廻船類の職が多く、港町の繁盛を支え ていました。

昭和13年に雄物川放水路が通される以前は、雄物川の河口は土崎にありました。「土崎」という地名の由来は、高清水・寺内丘陵の北の端で雄物川に臨む地形に基づくと考えられています。現在は一般的に土崎港と称しますが、「土浦」という呼び名もあったとされ、雄物川河口の砂浜に起因する地名と言われています。

土崎神明社祭の曳山行事

土崎の鎮守・土崎神明社の例祭として、毎年7月20日・21日 に行われ、400年近い歴史を持つ曳山行事。奉納される曳山 の台数は年によって違いますが、20台前後で街中を練り歩きま す。また、曳山の運行途中で曳山を止めて披露される「秋田 音頭」や「みなと小唄」などの踊りは、多くの見物客を楽しませ ます。

土崎神明社祭の曳山行事は、神迎えのさまざまな行事と風流の様相を色濃く残すとともに、わが国の山車の変遷過程などを知ることのできる地域性豊かな夏祭りは極めて貴重であるとして、平成9年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

マップの下にあるイラストは、土崎神明社祭の流れを表現したものです。イラストの中の人が話しているコメントは、ワークショップで土崎の方にインタビューをして聴き取ったコメントです。



囃子・踊り

この曳山行事の囃子は、「港ばやし」と呼ばれています。土崎の港ばやしには、現在「寄せ太鼓」「湊ばやし」「あいや節」「湊剣ばやし」「加相ばやし」があります。 祭りの華となり、多くの見物客を楽しませる踊りは、曳山の運行途中に止めて披露されます。なかでも「秋田音頭」は古くから踊っており、多くの人に親しまれています。



戻り曳山

7月21日 夜 各町内

相染町に到着した曳山は、夜、それぞれの町内に向い出発します。拍子木をもった音頭取りが祭りを盛り上げ、曳子はすべての力を振り絞って曳山を曳き、声を張り上げます。